

こんなもん買って！

第3回 音声入力ソフト **ViaVoice Gold**

10数年前にコンピュータというものを買ってから、ずうーと願っていたことがある。一つは「持ち運べるコンピュータが欲しい」ということであり、もう一つが「音声で入力したい」ということだ。

きょうび猫も杓子もモバイルってな感じで、パソコンが持ち運べることなど当たり前のような世の中だが、10年前ならコンピュータといえば、デスクトップで使うものだったのだ。

1989年、東芝のダイナブック登場に胸を躍らせ、初代98ノートを購入以降、私はノートパソコンを何台買ってきたことだろう。そして一昨年リブレットを購入、そのキーボードの小ささに辟易としながらも、ボウリング場でスコア入力をした瞬間、私の一つめの願いは完全に成就してしまったのだ。

もう一つの「音声入力」の方はどうだろうか。研究は進められているのだろうが、今ひとつパツとしない。

世の中にはキーボード入力の段階で躓いてしまって、素晴らしいコンピュータの世界に入れたい人が多くいる。コンピュータの小型化を望む声以上に、キーボードレスコンピュータを望む声は多いはず、とおもっているのだが。

キーボード以外の入力方法はどんなものがあるだろう？手書き？音声？

ペンで文字を入力するくらいならキーボードから入力した方が速いわな。だいたい私は正確に漢字を書けないので「手書き」はボツだ。頭の中で思ったことがパソコンにどんどん入力されて行くのは楽だけど怖いねえ。雑念がどんどんモニター上にあふれかえるだろう。けっきょく私がキーボード以外の入力方法として選択するなら「音声」だろうとおもう。ある程度考えながら、まとまって入力できるのが音声だと思うのだ。

さて、今回紹介するのは、音声入力ソフトのIBMのViaVoice Goldだ。こいつはソフトウェアで音声を文字に変換していく。入力は専用のヘッドセットをつけ

て行うところがちょっとめんどくさい。ソフトをインストールすると1時間くらい発声練習があって、こいつを行うことで、ソフト側がユーザーの声の質や癖を覚えるのだ。(その一方でソフトが入力できるような発声に矯正されるとも言える)

ちょっとやってみよう。

十数年前にコンピューターというものを買ってから、ずっと願っていたことがある。ひとつは「持ち運べるコンピューターがほしい」ということであり、もうひとつが「音声で入力したい」ということだ。
京美猫も杓子もモバイル寺感じで、パソコンが持ち運べることなど当たり前だよな世の中だが、十年前ならコンピューターといえば、デスクトップで使う物だったんだ。

今回の文頭を読んでみました。まあ、この程度ですわ。これを誤変換だらけと見るか、まあまあ使えると見るか。

普通にしゃべる程度の速度なら十分にソフトはついてきますので、速度的には合格点でしょう。誤変換した文字も選択肢の中から正しい文字に直してやると、次回からは変換の精度も上がります。FEPの辞書を育てるみたいな感覚でつきあっていけばそれなりに精度は上がっていくようですね。

問題は、咳払いや時計の音などの雑音ですな。これが誤変換の原因となります。

また一太郎や Word など一般のソフトと組み合わせて使うと、イライラするくらい遅くなるので、SpeakPad という専用エディタを使わざるを得ないこともマイナスポイントですな。

さて、このソフト。みなさんにお勧めできるか、というと。

…残念ながらできません。

キーボードアレルギーでしかも音声辞書をじっくりと育て上げるゆとりのある方のみお勧めします。

しかし「音声入力」は捨てがたい。単体のソフトウェアとして限界があるのなら、OSでのサポートやハードウェアレベルで実現できないものだろうかなあ。